

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4390100909		
法人名	株式会社 かいごのみらい		
事業所名	グリーンホーム おやまの郷 (なごみ)		
所在地	熊本市東区小山5丁目1-82		
自己評価作成日	令和5年3月25日	評価結果市町村受理日	令和5年6月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和5年4月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

おやまの郷の基本理念 1・共に歩むご縁を大切に安全で安心の家庭的な空間作りに努めます。2・ひとりひとりのその人らしい生活、想いを大切に支援します。3・ご利用者、ご家族、地域、職員の和を大切にします。を掲げています。日頃の介護については、ご利用者様の安全を確保するとともに、現在の心身機能の維持ができるようにと、毎日の体操や季節の歌など継続して行っています。普段会話が出来ない方が「楽しい」と言って頂いたことがあり毎日の積み重ねが大切であると痛感しています。令和4年度についてはコロナ禍にて、外出支援、面会など出来ていませんが、ご家族へ毎月のお便りで写真など一緒に見て頂いています。令和5年3月になり少しずつ面会の機会ができています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

静かな住宅街の中に法人2か所目のホームとして開設し12年が経過している。今年度もコロナ禍にあり外出を含め、以前ような取組は難しい面もあったが、「家庭的な空間」「その人らしい生活」「和を大切にした支援」の基本理念のもと、職員が連携を図り業務にあたっている。毎日の体操や毎月のレクリエーション、継続されているホーム内調理などの取組は、普段は話をされない入居者がホームの日常に「楽しい」と発語を引き出した事例が職員の励みとして生かされ、入居者及び職員の声が聞こえる環境で最終章を過したいとの思いを実現させている。少しずつコロナ禍前の日常に戻りつつあり、近隣や地域との交流、災害対策など協力体制等の再構築に期待したい。家族も面会の機会を心待ちにされており、ホーム内の環境を整え迎え入れられることを期待したい。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼の最後に勤務者全員で基本理念の唱和を行っており、内容を意識してケアにあたれるように心掛けている。理念に沿って利用者がその人らしい生活が送れるように考え支援している。	毎日の唱和により理念を意識しながらケアに取り組むホームである。、共に歩む「ご縁」を大切に安心で…とする理念のなかに入居者の最終の支援もご縁の一つとして捉えている。また、入居者の出来ること等を模索しながら“らしい生活”に反映させ、入居者・家族・地域・職員の「和」を大切にすることを謳い、ホームページやパンフレット等により理念を啓発している。	管理体制の変更という過度期に有り、全職員での振り返りの機会を作られる事が臨まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナのため地域との交流は実施できていない。	コロナ感染症という難局に、外部との接触をさせてきており、地域との交流については実施出来なかったと振り返り、新たに交流を図るべく動き出す意向である。	例年であれば“みんなのかカフェ”(認知症カフェ)での交流や高校生の実習受入れ等も行われてきた過程がある。再スタートに向け、地域包括支援センター等との話し合いの機会を持たれる事が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在地域の方との交流の場が取れていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面での報告にて対応している。紙面配布を行い面談できるように心がけている。コロナ禍にて会議開催出来ていないため、来年度に向けての課題である。	運営推進会議は書面審議として、自治会長・社協会長・民生委員・病院の連携室、地域包括支援センター、地域住民、家族代表等の構成メンバーに書類を配布することで開催している。(入居者状況や事故、ヒヤリハット等が詳細に記されている)	コロナ感染症対策の緩和により、対面での開催が予定されている。委員メンバーの変更もあり得るとして運営推進会議の意義から周知して参加をお願いする意向である。まずは、地域の中での生活の再始動に向けた意見交換等が行われることが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メールや電話でのやりとりだけではあるが、意見を交換し協力体制を築けるように務めた。コロナ感染数人あり、コロナ収束後に熊本市からコロナ感染対策についての研修を受けて頂いた。	行政との電話やメールでのやり取りや地域包括支援センターには入退居を発信し、入居者のみならず家族の見守り支援に繋げている。同系列グループホームからの情報により熊本市に登録された「認友」と称する(傾聴ボランティア)の受入れ等市の事業を活用する意向である。	
6	(5)	代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束の事案なくケアにあたる事が出来ている。身体拘束に関しては研修会を実施し定期的に委員会にて話し合いをして検討を行っている。	身体拘束排除宣言及び拘束廃止に向けての基本方針を玄関に掲げている。虐待の芽チェックリストや、グレーゾーンの対応及び不適切な対応を行っていないか等のアンケートや研修会及び身体拘束適正化委員会の開催により、拘束及び虐待について職員の意識を強化させている。スピーチロックを防ぐポイントなど具体的に示し、柔らかい言葉で丁寧に気持ちを伝えるよう共有している。新人職員については指針をもとにした研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士声をかけあい虐待のない介護に努めている。身体拘束虐待防止についての研修会を開いており知識を学び周知に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方はおられないが、権利の理解を深めることができる様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は契約書と重要事項説明書に添って時間をしっかりかけ説明を行っている。説明後も不明な点についての質疑応答を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族やご利用者から頂いた意見・要望に関しては職員に周知徹底し改善に努めるようにしている。その後のアフターフォロー説明もしっかり行っている。	入居者及び家族からの意見や要望等は申し送りノートにより共有している。家族の外出させたいと昼食と一緒に出る方等家族の要望には適切に対応している。コロナ禍では玄関、状況によっては居室での面会とし、担当職員による食事摂取、睡眠や排泄などの状況発信は家族の不安払拭に繋げている。また、ラインの使用等、家族との連絡方法を個別に把握しながら状況を発信している。	ホームでは家族には善し悪しにかかわらず報告する体制としている。入居者の平均介護度3.2と重度化傾向に有り、家族との交流ができるよう検討されることを望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員とのコミュニケーションをとるように努めている。必要な内容に関しては代表者へ伝え、普段から管理者や職員の声に耳を傾け運営に反映している。	日々の申し送りのなかで入居者のケアを話し合い、法人全体で行う管理者会議での検討事は全体会議の中で伝達し意見交換を行っている。また、看護職員4名での話し合いも行い、今の現状を踏まえて今後の体制を検討している。法人による内部監査によるホーム内確認も行われる等志向を高くして臨む法人である。環境を整えることでケアも向上すると捉え、全体会議時に掃除を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員の仕事に対する思い等を汲み取りながらやりがいのある職場環境作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内での研修以外、外部研修は十分にできておらず、ZOOMでの実践者研修は実施できた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内で事業所があるため相談しやすく情報共有やアドバイスを相互良好な関係が保っている。ケア・サービス向上に繋がっている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用される前にケアマネ・担当者・家族から情報や要望をしっかりと収集している。接する時間を作り声掛けを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にしっかりと面談をし心配事や要望を傾聴した上で、どのように対応できるか話をして安心して入居して頂けるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前担当のケアマネや主治医の意見を伺い全職員でしっかり情報共有している。ケアを行いながら検討し見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の「共に歩む」を基本とし、洗濯物干しやたたんだりなど一緒に行い介助の中でも出来る事は助けて頂きながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人との関係を今まで通りできるよう支援しつつ、家族への近況報告を密に行いながらケアの理解・協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、外出については実施できていないが面会に関しては予約制としその時の状況に合わせ来ていただけるように案内を行っている。	生活歴の中で馴染みの場所等把握はしているが、コロナ感染症により馴染みの場所への外出は実施していない。家族の訪問もコロナ感染症次第としている。家族の支援による自宅での昼食、親戚への仏壇参り等歩行が出来る入居者には今できる事を家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を常に把握し問題が発生した時は席替え等行い新しい関係性を作れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係を大切にし利用が終了した後も必要に応じて相談・支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から会話を行うことや表情を見ることなどから思いを把握できるようケアを実施している。困難な場合においてもスタッフ間での話し合い・ご家族への相談を行い意向を把握出来るようにしている。	生活歴を把握するとともに、日常の会話の中での把握や、職員が寄り添う事で思いを引き出している。歌が昔を思い出される等工夫しながら思い等を把握している。発語や意思疎通の難しい方には、表情や行動での推察や、うなづきも判断材料としている。在宅時の生活から好きな飲み物を持参される家族や好きな花の持参等もあり、家族と相談しながら、本人本位になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族に聞き取りを行い生活歴や環境の情報収集に努めている。本人の希望に沿って生活が送れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを尊重しそれに沿ってケアを実施している。できることがあればご本人の状態を確認しながらお手伝いをお願いするなど支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行いスタッフからの意見をもらい、ご家族からも意見を頂くことで介護計画に反映させて、それに沿った支援を行うように努めている。	新しいケアマネジャーとしてまずはアセスメントから職員に聞き取りし、全入居者のプランを見直している。ミニカンファレンスや全体会議の中で短期目標期間である3ヶ月毎に本人・家族の満足度を含みプラン修正を検討し、半年毎の見直しや家族の思いの変化及び状態変化にはサービス担当者会議(家族・介護職員・管理者・ケアマネジャーによる話し合い)により、具体的且つ個別的な現状に即したプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットを活用して、日々の状態を細かく記入しながら申し送りを適確に行いグループ内でミニカンファレンス等を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人本来の性格、今までのステージを基にご家族の要望に少しでも近づけるようにケアを行う。皮膚科や眼科受診など必要時には受診の付き添い行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて様々な行事の中止が続いてる中、少しでも心身ともに楽しく穏やかな暮らしが出来るように努めている。今後は地域資源との協働できるように努めていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の希望を優先しかかりつけ医と事業所との信頼関係も築きながらより良い医療が受けられているように努めている。	本人・家族の希望を尊重したかかりつけ医として、定期的な訪問診療により支援している。重度化された場合は、看取りに対応できる医療機関への変更を依頼している。職員は日頃の関わりから異常の早期発見に繋げ、医療に関しては看護職員間で検討している。歯科は訪問で対応しており、殆どの方が口腔ケアと必要な治療を受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護介護共に情報を共有しケア会議などでも意見交換を行いより良いケアが実施できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院の連携室と頻回に連絡相談を行い、スムーズな入退院が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の心身の状況と今後考えられる状態変化をとらえ家族と密に情報共有することで希望される治療や生活の場が提供できるように支援している。	入居時に看取り支援への取組を説明しており、現在殆どの方がホームでの最期を希望されている。今年度もホームでの看取りや看取り支援中急変で医療機関で最期を迎えた方もおられる。コロナ禍にあったが、最期のひと時を家族と過ごしてもらおうなどホームの細やかな対応に、家族から感謝の言葉が寄せられている。家族、医師との話し合いを記録に残し、重度化・終末期支援後は本人を偲びながら振り返りの機会をもっている。	看取りはホームの理念「ご縁」の一つと捉え、主治医、家族と連携を図り、入居者の最終章に込めている。今後もホームに出来得る最良の支援に努めていかれる事を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者それぞれにおけるリスクマネジメントを行い、スタッフ間で共通理解を図ることで不測の事態に対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練やシュミレーションを行い、発生時にしっかり対応出来るように心掛けている。食料、水など備蓄をしっかり管理し保管場所の周知に努めている。	今年度は防災業者立ち会いのもと、総合防災訓練を2回実施し水消火器を使用した訓練の他、入居者も避難を体験している。災害発生時に的確な対応が出来るよう、情報を共有し、安全チェックとして掃除時にコンセント周囲などを見て回っている。	管理者は新年度水消火訓練の実施や地域との協力体制、連携を深めていきたいとしており、実現に期待したい。また備蓄は敷地内の倉庫で管理しており、備蓄リストの確認や日頃の安全チェックの共有に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人一人の尊厳を守りながら声掛けやケアを行っている。嫌がられるような事があった際は職員間で情報共有し無理に行わないように配慮している。	今年度は接遇に関する研修を実施し、振り返りを行ったことで職員の意識改革に繋がっている。また、挨拶や「ありがとう」という感謝の言葉の大切さなど日頃から意識を持ってケアに当たっている。呼称は苗字にさん付けを基本とし、時には入居者に自己紹介をしてもらう機会を作り、それぞれが名前をきちんと発せられることに、自分の名前への誇りを感じると管理者は語っている。髪のカットは訪問で対応し、イベント時の服装や化粧など個々の希望を聞きながら、身だしなみやおしゃれを支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りご利用者の希望や要望に添えるようにしている。今後も何か希望があるか尋ね希望に添えるよう取り組むようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員ではなくご利用者のペースに合わせて過ごして頂いている。歌を歌ったり散歩したいときは付き添い気分転換をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容や服装化粧など生活歴に応じた支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月一日に赤飯を提供し、季節に合った食事内容や行事食を提供し喜ばれている。	法人の栄養士が作成した献立をアレンジしながら専任者2名が交代で昼・夕食を、朝食は職員が調理している。食形態も個々に応じてキザミや一口大の他、ミキサー食も多くなっているようである。必要に応じて介助しており、ミキサー食の方はゆとりをもって早めに提供を始め、こぼしがちな方にもエプロンではなく、基本的にタオルで対応している。行事食や季節のご飯(さつまいも・たけのこ等)、庭先でハロウインのワンプレートランチ、入居者も一緒に焼き芋の下準備(新聞で包む)など食事を楽しむ工夫が聞かれた。これらの取組は広報紙の中で紹介している。	職員は現在、全員が持参した弁当などを食べているが、味や量、盛り付けなど、入居者の代弁者として1名でも同じものを摂る事が出来ないうかが検討されることを期待したい。入居者の発した一言なども併せて記録に残すことで今後に生かせるものと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容は管理栄養士が作成した献立を使用している。食事や水分摂取が低下している時は形態を変えたりジュースなどに変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後自立者には声掛け見守り行い、介助を要する方にも可能な限り自己で行って頂き不十分な部分を介助している。訪問歯科からの助言頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄パターンをアセスメントしより自然に近い排泄行動ができるよう支援している。	日中は可能な限りトイレでの排泄を支援しており、夜間のみポータブルトイレを使用される方もおられる。リハビリパンツや布パンツの着用、また申し送り時夜間の排泄状況の話し合いや尿量による排泄用品の検討等により、心地よい排泄を支援するよう職員が気づきを持ってケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難時の排便障害を推測アセスメントしそれぞれの習慣性にあつた飲食物の提供や下剤を使用することで便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	バイタルチェック行い気分や体調に十分考慮し声掛けしながら無理強いせずに入浴して頂いている。季節を感じて頂く為にしようばやゆず湯も行っている。	本人の気分や希望、バイタルチェックにより入浴の可否を見極め、週2回午前・午後の入浴を支援している。浴槽のまたぎが出来る方が少なく、機械浴の使用が多くなっている現状である。入浴を楽しみにされている方もおられるが、「今日はいい！」と気持ちが進まない返答をされる場合には、時間を置いて再度声を掛けたり、数人の職員で声掛けや誘導を工夫している。季節湯(苜蒲・柚子)も継続して取り組んでおり、全員が楽しめるよう3日間実施している。	入浴を楽しむ環境や安全面からも脱衣所の洗剤などの管理や整頓については、今後の取り組みが期待される。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の日々の過ごし方での状況や状態を共有し臥床や就寝に対応している。季節に応じた室温湿度安全にも考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬の防止のためトリプルチェックを行っている。確実な服用、副作用等の出現に留意し訪問ドクター薬剤師と連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換の為外に出て日光浴をしたり季節の行事などで役割を持ってもらい張り合いをもって生活して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調やご本人家族の希望に合わせて外出して頂いている。花見の時期は中庭に出て桜を観賞して頂いている。	以前のようにドライブなど計画的な外出は控えているが、裏庭で季節の樹木や草花の開花を見ながらの日光浴は継続して取り組んでいる。感染対策を施し、仏壇まいりでの帰省や外泊も実現している。またコロナも落ち着いてきた時期に誕生祝いを兼ね自宅に帰省し、用意された好物(鰻)を食べて帰園された方もおられる。管理者は今後も歩行状態などを考慮し、今できる外出支援を家族の協力を得ながら取り組んでいきたいとしている。	中庭での花見や玄関先で車や人の往来を見ながらの外気浴など、今後もホームの環境を生かした取組に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの為現在買い物支援を行っていない状況にあるが徐々に機会を設けていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば都度連絡できる体制を整えており支援している手紙に関しても制限はなく希望があれば支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明、室温、湿度、臭い、音など調整し快適に過ごせるように努めている。季節ごとの装飾や花、思い出の品で季節を感じて頂いている。	リビングをはじめ共用空間には入居者と一緒に作成した季節の壁面や玄関内の飾り物など職員の工夫が窺える。また、ホーム内には敷地内に咲いた花を見てもらい、色や香りなども楽しんでもらっている。入居者の中には歩くことで安心される方もおられ、リビングの手すりを使って安全に歩行できるよう、物品の配置にも配慮している。照明や室温、換気やテレビの音量など入居者の状態を見ながら調整し、テレビを見たり、折り紙を楽しむ方や新聞を開く方など思い思いの時間を過ごす共有空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間での席は決まっているが好まれる場所への椅子の設置や空間づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や好まれるものを飾ったり、使い慣れたものを置いたりして居心地のいい環境づくりに努めている。動線にも気を付けスッキリとした空間づくりにも配慮している。	入居の際に必要な品について記入したプリントを準備し、自宅で使用していた物など馴染みの品の持ち込みを口頭で伝えている。食事以外日中は殆ど居室で過ごされる方やベッドの位置や向きなど個々の身体状況に応じ、家族へも状況を伝えながら取り組んでいる。また、荷物が増えた方もあり安全面からの整頓や本人の好きな花を届けられるなど家族の協力が得られている。	コロナが少し落ち着いた時は、希望に応じマスクを着用し、居室で家族との面会も実現している。今後もコロナの状況を見ながら居室の環境整備や入口の掲示板の飾りつけなど、家族の協力を得ながら進めていかれる事を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立して歩行訓練される方の動線に物を置かずスッキリとさせる。車椅子の方の介助がやりやすいような家具などの配置づくりに努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4390100909		
法人名	株式会社 かいごのみらい		
事業所名	グリーンホーム おやまの郷 (きずな)		
所在地	熊本市東区小山5丁目1-82		
自己評価作成日	令和5年3月25日	評価結果市町村受理日	令和5年6月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	令和5年4月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

おやまの郷の基本理念 1・共に歩むご縁を大切に安全で安心の家庭的な空間作りに努めます。2・ひとりひとりのその人らしい生活、想いを大切にし支援します。3・ご利用者、ご家族、地域、職員の和を大切にします。を掲げています。日頃の介護については、ご利用者様の安全を確保するとともに、現在の心身機能の維持ができるようにと、毎日の体操や季節の歌など継続して行っています。普段会話が出来ない方が「楽しい」と言ってくれたことがあり毎日の積み重ねが大切であると痛感しています。令和4年度についてはコロナ禍にて、外出支援、面会など出来ていませんが、ご家族へ毎月のお便りや写真など一緒に見て頂いています。令和5年3月になり少しずつ面会の機会ができています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--	--	--	--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと to
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼の最後に勤務者全員で基本理念の唱和を行っており、内容を意識してケアにあたれるように心掛けている。理念に沿って利用者がその人らしい生活が送れるように考え支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在コロナのため地域との交流は実施できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在地域の方との交流の場が取れていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面での報告にて対応している。紙面配布行い面談できるように心がけている。コロナ禍にて会議開催出来ていないため、来年度に向けての課題である。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メールや電話でのやりとりだけではあるが、意見を交換し協力体制を築けるように務めた。コロナ感染数人あり、コロナ収束後に熊本市からコロナ感染対策についての研修をして頂いた。		
6	(5)	代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束の事案なくケアにあたる事が出来ている。身体拘束に関しては研修会を実施し定期的に委員会にて話し合いをして検討を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士声をかけあい虐待のない介護に努めている。身体拘束虐待防止についての研修会を開いており知識を学び周知に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方はおられないが、権利の理解を深めることができる様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は契約書と重要事項説明書に添って時間をしっかりかけ説明を行っている。説明後も不明な点についての質疑応答を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族やご利用者から頂いた意見・要項に関しては職員に周知徹底し改善に努めるようにしている。その後のアフターフォロー説明もしっかり行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員とのコミュニケーションをとるよう努めている。必要な内容に関しては代表者へ伝え、普段から管理者や職員の声に耳を傾け運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員の仕事に対する思い等を汲み取りながらやりがいのある職場環境作りに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内での研修以外、外部研修は十分にできておらず、ZOOMでの実践者研修は実施できた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内で事業所があるため相談しやすく情報共有やアドバイスを行い相互良好な関係が保っている。ケア・サービス向上に繋がっている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用される前にケアマネ・担当者・家族から情報や要望をしっかりと収集している。接する時間を作り声掛けを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にしっかりと面談をし心配事や要望を傾聴した上で、どのように対応できるか話をして安心して入居して頂けるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	前担当のケアマネや主治医の意見を伺い全職員でしっかりと情報共有している。ケアを行いながら検討し見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の「共に歩む」を基本とし、洗濯物干しやたたんだりなど一緒に行い介助の中でも出来る事は助けて頂きながら関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人との関係を今まで通りできるよう支援しつつ、家族への近況報告を密に行いながらケアの理解・協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在、外出については実施できていないが面会に関しては予約制としその時の状況に合わせ来ていただけるように案内を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を常に把握し問題が発生した時は席替え等行い新しい関係性を作れるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係を大切にし利用が終了した後も必要に応じて相談・支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から会話を行うことや表情を見ることなどから思いを把握できるようケアを実施している。困難な場合においてもスタッフ間での話し合い・ご家族への相談を行い意向を把握出来るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族に聞き取りを行い生活歴や環境の情報収集に努めている。本人の希望に沿って生活が送れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを尊重しそれに沿ってケアを実施している。できることがあればご本人の状態を確認しながらお手伝いをお願いするなど支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行いスタッフからの意見をもらい、ご家族からも意見を頂くことで介護計画に反映させて、それに沿った支援を行うように努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットを活用して、日々の状態を細かく記入しながら申し送りを適確に行いグループ内でミニカンファレンス等を行う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人本来の性格、今までのステージを基にご家族の要望に少しでも近づけるようにケアを行う。皮膚科や眼科受診など必要時には受診の付き添い行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて様々な行事の中止が続いてる中、少しでも心身ともに楽しく穏やかな暮らしができるように努めている。今後は地域資源との協働できるように努めていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の希望を優先しかかりつけ医と事業所との信頼関係も築きながらより良い医療が受けられているように努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護介護共に情報を共有しケア会議などでも意見交換を行いより良いケアが実施できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各病院の連携室と頻回に連絡相談を行い、スムーズな入退院が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の心身の状況と今後考えられる状態変化をとらえ家族と密に情報共有することで希望される治療や生活の場が提供できるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者それぞれにおけるリスクマネジメントを行い、スタッフ間で共通理解を図ることで不測の事態に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練やシュミレーションを行い、発生時にしっかり対応出来るように心掛けている。食料、水など備蓄をしっかり管理し保管場所の周知に努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者一人一人の尊厳を守りながら声掛けやケアを行っている。嫌がられるような事があった際は職員間で情報共有し無理に行わないように配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りご利用者の希望や要望に添えるようにしている。今後も何か希望があるか尋ね希望に添えるよう取り組むようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員ではなくご利用者のペースに合わせて過ごして頂いている。歌を歌ったり散歩したいときは付き添い気分転換をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整容や服装化粧など生活歴に応じた支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月一日に赤飯を提供し、季節に合った食事内容や行事食を提供し喜ばれている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容は管理栄養士が作成した献立を使用している。食事や水分摂取が低下している時は形態を変えたりジュースなどに変えて提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後自立者には声掛け見守り行い、介助を要する方にも可能な限り自分で行って頂き不十分な部分を介助している。訪問歯科からの助言頂く。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者それぞれの排泄パターンをアセスメントしより自然に近い排泄行動ができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難時の排便障害を推測アセスメントしそれぞれの習慣性にあった飲食物の提供や下剤を使用することで便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェック行い気分や体調に十分考慮し声掛けしながら無理強いせずに入浴して頂いている。季節を感じて頂く為にしょうぶやゆず湯も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の日々の過ごし方での状況や状態を共有し臥床や就寝に対応している。季節に応じた室温湿度安全にも考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬の防止のためトリプルチェックを行っている。確実な服用、副作用等の出現に留意し訪問ドクター薬剤師と連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換の為に外に出て日光浴をしたり季節の行事などで役割を持ってもらい張り合いをもって生活して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調やご本人家族の希望に合わせて外出して頂いている。花見の時期は中庭に出て桜を觀賞して頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナの為現在買い物支援を行っていない状況にあるが徐々に機会を設けていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば都度連絡できる体制を整えており支援している手紙に関しても制限はなく希望があれば支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明、室温、湿度、臭い、音など調整し快適に過ごせるように努めている。季節ごとの装飾や花、思い出の品で季節を感じて頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間での席は決まっているが好まれる場所への椅子の設置や空間づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真や好まれるものを飾ったり、使い慣れたものを置いたりして居心地のいい環境づくりに努めている。動線にも気を付けスッキリとした空間づくりにも配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立して歩行訓練される方の動線に物を置かずスッキリとさせる。車椅子の方の介助がやりやすいような家具などの配置づくりに努めている。		